

# 研究業績一覧表

2007年12月19日

氏名 菅原 純 印

## ①編著書

1. 共編(GICAS叢書)『中国におけるアラビア文字文化の諸相』(町田和彦、黒岩高との共編) 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所(2003年3月)、178頁。
2. 共編(GICAS叢書)『周縁アラビア文字文化の世界－規範と拡張－』(町田和彦、黒岩高との共編) 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所(2004年3月)、162頁。
3. 共編(GICAS叢書)『周縁アラビア文字文化の世界－規範と拡張②－』(町田和彦との共編) 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所(2005年3月)、149頁。
4. 共編(GICAS叢書)『周縁アラビア文字文化の世界－規範と拡張③－』(町田和彦との共編) 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所(2006年3月)、133頁。
5. 共編『新疆およびフェルガナのマザール文書(影印)1』(河原弥生との共編) 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所(2006年12月)、154頁。
6. 共著『Éling, Éling! (2007年夏期言語研修「現代ウイグル語」テキスト )』(アイスマ・ミルスルタンとの共著) 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所(2007年8月)、164頁。
7. 共著『現代ウイグル語接辞索引(2007年夏期言語研修「現代ウイグル語」副教材 )』(アイスマ・ミルスルタンとの共著) 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所(2007年8月)、34頁。
8. 単著『現代ウイグル語語彙集(附日本語-現代ウイグル語索引)(2007年夏期言語研修「現代ウイグル語」副教材)』 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所(2007年8月)、533頁。

## ②研究論文

1. 単著「クーチャー・ホージャの『聖戦』とムスリム諸勢力(1864-65)」『内陸アジア史研究』第11号(1996年) 内陸アジア史学会、17-40頁。
2. 単著「新疆・ウイグル人の職業別祈祷ハンドブック『リサラ』」『内陸アジア史研究』 第13号(1998年) 内陸アジア史学会、71-84頁。
3. 単著「『北京のモリソン』と新疆:モリソン文書中の新疆関連資料について」『東洋文庫書報』第30号(1997年)(財)東洋文庫、22-44頁。
4. 単著「創出される『ウイグル民族文化』:『ウイグル古典文学』の復興と墓廟の『発見』」『アジア遊学』 第一号(『日中文化研究』第15号)(1999年) 勉誠出版

5. 単著「中国・新疆ウイグル自治区における文字と印刷・出版文化の歴史と現状－ウイグル語の事例を中心に－」町田和彦編『アジアの文字と出版・印刷文化及びその歴史に関する調査・研究－デジタル化移行の基礎として－』科学研究費補助金(基盤研究A:海外学術調査, 1999-2000年度)研究成果報告書(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 2001年3月)、117-154頁。
6. 単著「現代ウイグル語とコンピュータ－2001年夏の状況と展望」『イスラム世界』第58号(2002年3月) 社団法人日本イスラム協会、93-110頁。
7. 共著「カーシュガル・ホージャ家アーファーク等の活動の一端－ヤーリング・コレクション Prov.219について－」(新免康との共著)『東洋史研究』61-3(2002年12月) 京都大学・東洋史研究会、33-63頁。
8. 単著"Morrissoning Shinjanggha alaqidar khatiriliri häqqidä" *Shinjang tazkirichiliki*. 2003-yil, 1-san.(2003年), 47-51p.
9. 単著"Uyghurlarning huner-kesip risaliliri", *Miras*. 2004-yil, 1-san.(2004年),1-7p.
10. 単著 "Уйғурлар вә Япония Империяси", Камалов, А.(ред.) *Уйғуроведение в Казахстане: Традиция и Новация*. Алматы: Наш Мир, 2006. стр.106-113.
11. 単著「ドイツ連邦共和国所蔵の新疆史料について－マルティン・ハルトマン収集写本と関連資料－」新免康編『中央アジアにおけるウイグル人地域社会の変容と民族アイデンティティに関する調査研究』(平成15年度～18年度日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究A(1)・研究成果報告書)、2007年3月、53-70頁。

### ③口頭発表

1. 単独報告「東トルキスタンにおけるムスリム反乱--クチャとホタン--」(内陸アジア史学会大会、内陸アジア史学会、早稲田大学、1991年12月)
2. 単独報告「Zafar nama-yi Shah Bahadur Khan: 19世紀東トルキスタン史の一史料」(野尻湖クリルタイ、日本アルタイ学会、野尻湖ホテル、1996年7月)
3. 単独報告'Musafir's in Yarkand: An Essay on "International" Relations in the Time of Disturbance'(Central Asian Research Seminar "International Relations in Central Asia: Past and Present"、北海道大学スラブ研究センター、1998年10月)
4. 共同報告「カーシュガル・ホージャ家アーファーク統の活動の一端:ヤーリング・コレクションProv.219について」(新免康との共同研究発表、東洋史研究会大会、京都大学東洋史研究会、京大会館、1999年11月)
5. 単独報告「19-20世紀ホタンの殉教歌謡－「纏回」と「東干」の関係をを中心に－」(野尻湖クリルタイ、日本アルタイ学会、藤屋旅館、2001年7月)

6. 単独報告「19世紀ホタン蜂起の記憶とその継承に関する一考察」(内陸アジア史学会大会、内陸アジア史学会、東北学院大学、2003年11月)
7. 単独報告(Presentation) "ORIAS(Online Resource for Inner Asian Studies)-the New Online Databases of Works on Xinjiang and Union List of Chaghatay Manuscripts." ("International Conference: Situating the Uyghurs between China and Central Asia", ロンドン大学東洋アフリカ学部(SOAS)、SOAS Brunei Gallery, 2004年11月)
8. 単独報告(Presentation) "19-20c Qadi Documents from Kashghar." ("International Workshop on Xinjiang Historical Sources", 同会議組織委員会、箱根松坂屋本店、2004年12月)
9. 単独報告"The 'Revitalization' of Resale; Islamic Folk Publications in Modern Xinjiang"(2005 Summer International Symposium Regional and Transregional Dynamism in Central Eurasia: Empires, Islam, and Politics Session 4: Islamic Revival: Transnational or National Phenomenon? 、北海道大学スラブ研究センター、2005年7月)
10. 単独報告「省制期新疆地契文書の書式について」(野尻湖クリルタイ、日本アルタイ学会、藤屋旅館、2005年7月)
11. 単独報告“Уйғурлар вә Японийә Империйиси”("Uyghur Studies in Kazakhstan: Tradition and Innovation" カザフスタン共和国科学アカデミー東洋学研究所、同会議場、2005年9月)
12. 共同報告"A Historical Source of the Afaqī Khwajas under Qing Rule: On Scroll Prov. 219 of the Gunnar Jarring Collection, Lund University Library, Sweden”(新免康氏との共同研究発表、"7th Annual Conference of the Central Eurasian Studies' Society" 米国中央ユーラシア学会、University of Michigan, Ann-Arbor, USA、2006年10月)
13. 単独報告「伝統と適合:省制期新疆における契約文書の『中国化』をめぐって(1884-1954)」(野尻湖クリルタイ、日本アルタイ学会特別企画「佐口透先生を偲んで」ミニシンポ「帝国と文明のフロンティアにおける法:19-20世紀新疆およびカザフ草原の文書から」、藤屋旅館、2007年7月)
12. 単独報告"Tradition and Adoption: The Sinicization of Legal Documents in Turkic Traditional Society in Provincial Xinjiang (1884-1955)" "8th Annual Conference of the Central Eurasian Studies' Society" 米国中央ユーラシア学会、University of Washington, Seattle, USA、2007年10月)

#### ④-1. 調査報告

1. 単独調査「カシュガル地方における聖地調査」澤田稔編『中央アジアのイスラーム聖地—フェルガナ盆地とカシュガル地方—』(シルクロード学研究vol.28)奈良:なら・シルクロード博記念国際交流財団/シルクロード学研究センター(2007年3月)、19-34頁。

2. 単独調査「カシュガル地方における聖地伝承」澤田稔編『中央アジアのイスラーム聖地—フェルガナ盆地とカシュガル地方—』(シルクロード学研究vol.28)奈良:なら・シルクロード博記念国際交流財団/シルクロード学研究センター(2007年3月)、67-78頁。

#### ④-2. その他書評、アカデミック・エッセイなど

1. (共著:座談会記録)「記憶と語りで伝える文化」(小杉泰、松枝到との対談)『季刊本とコンピュータ』2002年春号、140-143頁。
2. (単著:講演記録)「殉教者の国ホタン」『通信』第101号(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2001年3月26日)、10-17頁。
3. (単著:随筆)「ミフマン・ドスト」『東亜』No.408, 2001年6月号(霞山会、2001年6月1日)、4-5頁。
4. (単著:書評)「キム・ホドン著『中国の聖戦--中国領中央アジアにおけるムスリム反乱と国家(1864-1877)』」『東洋学報』第86巻 第2号(東洋文庫、2004年9月1日)、129-137頁。
5. (単著:学術エッセイ)「翻弄された文字文化—現代ウイグル語の黄昏」『アジ研ワールド・トレンド』2005年1号(アジア経済研究所、2005年1月1日)、12-15頁。
6. (単著:学術エッセイ)「ウイグル人と大日本帝国」『アジ研ワールド・トレンド』2005年1号(アジア経済研究所、2005年1月1日)、28-31頁。
7. (単著:学会動向)「国際学術会議『中国・中央アジア間におけるウイグル人の位置づけ』」『イスラム世界』64号(社団法人日本イスラム協会、2005年3月1日)、79-90頁。
8. (共著:学会動向)「国際ワークショップ「18-20世紀新疆史関連史料の諸相」」(新免康との共著)『通信』第113号(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2005年3月25日)、10-16頁。
9. (単著:項目執筆)「ウイグル語」、「紙」、「茶」、「チャイハネ」、「祭り(新疆)」、「リサーラ」、「支配者の言語(新疆)」、「文字(新疆)」小松久男他編『中央ユーラシアを知る事典』(平凡社、2005年4月1日)、72, 140, 188-190, 333-335, 480-483, 504-506頁。
10. (単著:フォトエッセイ)「『ディスク』にいこう!」『アジ研ワールド・トレンド』2005年8号(アジア経済研究所、2005年8月1日)、43-46頁。
11. (単著:書評)“Forbes, A.D.W., *Warlords and Muslims in Chinese Central Asia: A Political History of Republican Sinkiang 1911-1949*” Dudoignon, S.A., and Komatsu, H. (eds.), *Research Trends in Modern Central Eurasian Studies (18th-20th Centuries); A Selective and Critical Bibliography of Works Published between 1985 and 2000. Part 2.* (Tokyo: The Toyo Bunko, 2006.) p.187.
12. (単著:書評)“Millward, James A., *Beyond the Pass: Economy, Ethnicity, and Empire in Qing Central Asia, 1759-1864*” Dudoignon, S.A., and Komatsu, H. (eds.), *Research Trends in Modern Central Eurasian Studies (18th-20th Centuries); A Selective and Critical Bibliography of Works Published between 1985 and 2000. Part 2.* (Tokyo: The Toyo Bunko, 2006.) p.188.

13. (共著:学会動向) "International Workshop on Xinjiang Historical Sources"(Co-author with Yasushi Shinmen and James A. Millward), *Central Eurasian Studies Review*, volume 5, Number 1 (2006), pp. 58-60.
14. (単著:学会動向) 「第7回米国中央ユーラシア学会 (CESS)年次大会」 『イスラム世界』 68号 (社団法人日本イスラム協会、2007年3月)、74-82頁。
15. (共著:CD-ROM) 『Éling, Éling! (2007年夏期言語研修「現代ウイグル語」音声教材)』(アイスマ・ミルスルタンとの共著) 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所(2007年8月)。

## ⑤講演・公開講座等

1. 2000年10月 「Shahidan-i Khotan(殉教のホタン)のマザールー中国領中央アジアのイスラーム聖者信仰」東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所平成12年度公開講座「アジア・アフリカの21世紀を読み解くためにーイスラームの民間信仰・聖者信仰ー」(於東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所)
2. 2000年10月 「翻弄された文字文化ー文字から見る『ウイグル語』の20世紀」国際交流基金アジアセンター, アジア理解講座「アジアの文字曼荼羅ー文字から見える文化圏」(於国際交流基金アジアセンター)
3. 2000年11月 「多民族国家中国の『文字曼荼羅』ー今日の新疆ウイグル自治区の事例」国際交流基金アジアセンター, アジア理解講座「アジアの文字曼荼羅ー文字から見える文化圏」(於国際交流基金アジアセンター)
4. 2001年10月 「文字から見た中央アジアの近現代史」高等教育情報化推進協議会・エル＝ネット(教育情報衛星通信ネットワーク)「オープンカレッジ」東京外国語大学(AA研)『アジアー多様な文字へのまなざし』(衛星放送)
5. 2002年2月 「清朝支配下の東トルキスタンーアブド・ガファルの『勝利の書』にみる歴史認識」朝日カルチャーセンター横浜・教養講座「史料から見るイスラーム文明の歴史:南アジアと中央アジア」(於朝日カルチャーセンター横浜)
6. 2003年6月 「中央アジアにおけるイスラームと聖者崇拜」神奈川県海老名市市民教養大学(公開講座)『イスラムの世界』(於海老名市立中央公民館)
7. 2003年6月 「広大なトルコ世界とその淵源」東京都渋谷区区民大学講座『トルコ民族の歴史』(於渋谷区千駄ヶ谷社会教育館)
8. 2003年6月 「イスラームとの邂逅」東京都渋谷区区民大学講座『トルコ民族の歴史』(於渋谷区千駄ヶ谷社会教育館)
9. 2003年7月 「トルコ諸『民族』の創出」東京都渋谷区区民大学講座『トルコ民族の歴史』(於渋谷区千駄ヶ谷社会教育館)
10. 2004年3月 "19-20c Qadi Documents from Kashghar: Collection and Preliminary Studies from Historical Perspective" Institut für Orientalistik, Universität Halle-Wittenberg (Halle, Germany)

11. 2004年3月 「カシュガル都市社会像の再構築の試みーカシュガル文書について」中央大学人文科学研究所公開研究会「イスラームの都市的世界」(於中央大学理工学部後楽園キャンパス)

## ⑥公費派遣によるフィールド・ワーク等

(i)目的・内容

(ii)スポンサー・研究プロジェクト名

(iii)主要訪問地

1. 欧州所蔵東トルキスタン歴史文献調査(1998年3月)(i)トルコ諸語写本を中心とする東トルキスタン史関連の書誌情報の収集。19-20世紀に現地で収集された写本類を収蔵する各図書館を訪問するとともに、各地研究者と書誌情報・史料研究状況について情報交換を実施。(ii)三菱財団助成「東トルキスタン歴史文献に関する基礎的研究」(iii)ベルリン、ハレ(ドイツ)、レント(スウェーデン)、サンクト・ペテルブルグ(ロシア)
2. 新疆ホタン地区聖者廟調査(2000年3月)(i)ホタン地区ニヤ、イルチにおける聖者廟踏査ならびに19世紀反乱史に関わる口碑資料の収集。ニヤのイマーム・ザーファル・サーディク廟、ホタンのコフマリム廟、そしてカラカシュのダスタンチ(叙事詩語り部)等を訪問。(ii)科研費「中央アジアにおける共属意識とイスラムに関する歴史的研究」(iii) ウルムチ、ホタン、カラカシュ、ロブ、チラ、ケリヤ、ニヤ(中国・新疆ウイグル自治区)
3. 新疆・現代ウイグル語出版事情調査(2000年8月)(i)伝統的の文字文化から印刷の導入、さらに昨今のコンピュータの導入に至る歴史的経緯に関する事情調査。新疆ウイグル自治区内の政府言語管理部門、古典資料管理部門、主要出版社、印刷所、書店、図書館等を訪問。(ii)科研費「アジアの文字と出版・印刷文化」(iii) ウルムチ、カシュガル、ホタン(中国・新疆ウイグル自治区)
4. 新疆・カザフスタン歴史調査(2001年8月)(i)新疆・カザフスタン両地域におけるウイグル人の民族移動(20世紀)に関する聞き取り調査。(ii)科研費「フィールドワークの手法に関する総合調査研究」(iii)ブルチュン、ウルムチ、ホタン(中国・新疆ウイグル自治区)、アルマトウ、ジャルケント(カザフスタン)
5. 新疆コムル地区手工業事情調査(2002年5月)(i)新疆コムル市における手工業職人の祈祷ハンドブック(リサラ)収集と聞き取り調査。(ii) トヨタ財団研究助成(A:個人研究対象)『新疆ウイグル人の職業意識の伝統と現状に関する歴史・人類学的研究』(iii)コムル(中国・新疆ウイグル自治区)
6. 中央アジア・新疆情報化事情調査(2002年8月)(i)中央アジア地域における民族語のコンピュータ・リテラシー事情調査。(ii)財団法人国際情報化協力センター・中央アジア情報化調査ミッション(iii)タシュケント(ウズベキスタン)、ビシュケク(クルグズスタン)、アルマトウ(カザフスタン)、ウルムチ(中国・新疆ウイグル自治区)

7. 新疆民間所蔵文献調査(2002年9月)(i)カシュガル市の民間所蔵文書の収集と調査。(ii)文科省特別推進COE「アジア書字コーパスに基づく文字情報学の創成」サブプロジェクトORIAS (iii)カシュガル(中国・新疆ウイグル自治区)
8. 中央アジア・新疆ドゥンガン文字資料調査(2003年8月)(i)ドゥンガン語文字資料(アラビア語で書かれた漢語方言資料)の収集。(ii)文科省特別推進COE「アジア書字コーパスに基づく文字情報学の創成」サブプロジェクト「『小児錦』文字資料コーパス」(iii)タシュケント、フェルガナ、(ウズベキスタン)、ビシュケク、オシュ(クルグズスタン)、カシュガル(中国・新疆ウイグル自治区)
9. ドイツ文献調査(2004年3月)(i)ベルリン国立図書館、ハレ大学図書館所蔵のチャガタイ・トルコ語史料の調査。(ii)科研費「中央アジアにおけるウイグル人地域社会の変容と民族アイデンティティに関する調査研究」  
(iii)ベルリン、ハレ(ドイツ連邦共和国)
10. 連合王国文献調査(2004年11月)(i) ロンドン大学東洋アフリカ学院(SOAS)所蔵中国内地伝道団資料の調査。ならびに同学院開催学会での口頭報告。(ii) 文科省特別推進COE「アジア書字コーパスに基づく文字情報学の創成」サブプロジェクトORIAS (iii)ロンドン(連合王国)
11. 新疆カシュガル地区聖者廟調査(2005年8月)(i)カシュガル地区のイスラーム聖者廟におけるイスラーム教徒の参詣事情調査。(ii) (財)なら・シルクロード博記念国際交流財団・シルクロード学研究センター課題研究「中央アジアのイスラーム聖地の研究 —フェルガナ盆地を中心に」  
(iii)カシュガル、ウルムチ(中国・新疆ウイグル自治区)
12. 新疆コムル聖者廟調査(2005年10月)(i) コムル地区のイスラーム聖者廟におけるイスラーム教徒の参詣事情調査。ならびにアルマトゥ開催学会での口頭報告。(ii) 文科省特別推進COE「アジア書字コーパスに基づく文字情報学の創成」サブプロジェクトORIAS (iii)コムル、ウルムチ(中国・新疆ウイグル自治区)、アルマトゥ(カザフスタン)
13. 新疆コムル聖者廟調査(2006年3月)(i) コムル地区のイスラーム聖者廟におけるイスラーム教徒の参詣事情調査。(ii) トヨタ財団助成「新疆・フェルガナ両地域におけるマザール文書の調査・集成・研究」(iii) コムル、ウルムチ(中国・新疆ウイグル自治区)
14. 新疆言語資源調査(2006年8月)(i)新疆主要3都市(区都、西部、東部)における現代ウイグル言語資源(主として電子化言語資源)の所在調査。(ii)文部科学省科学技術振興調整費「アジア言語情報技術資源ネットワークの構築:言語資源に関する所在調査と入力システム開発」(研究代表者:町田和彦 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究助教授)(iii)ウルムチ、カシュガル、コムル(中国・新疆ウイグル自治区)
15. 新疆マザール文書調査(2007年3月)(i)新疆大学人文学院所蔵文書の調査、ならびに2008年夏に同学院と共催予定の国際学術会議に関する協議。(ii) トヨタ財団助成「新疆・フェルガナ両地域におけるマザール文書の調査・集成・研究」(プロジェクト詳細は次項「参加研究プロジェクト・個人助成研究プロジェクト」参照)(iii)ウルムチ(中国・新疆ウイグル自治区)

## ⑦競争的資金による研究プロジェクト・個人研究助成等

## ⑧学会活動、国際会議組織

1. Central Eurasian Studies Society, USA.
2. 日本アルタイ学会(通称「野尻湖クルルタイ」)
3. 内陸アジア史学会
4. 西南アジア史学会
5. 日本中央アジア学会
6. 中国ムスリム研究会
7. ウイグル歴史文化研究会
8. 社団法人日本イスラム協会 (運営委員)
9. 2004年12月 国際学術会議 International Workshop on Xinjiang Historical Sources.(於箱根・松坂屋本店) organizer、総合司会
10. 2005年11月 国際学術会議 International Conference: Mazars in Ferghana and Xinjiang. (於東京水道橋・小倉ビル会議場) organizer、総合司会